

NCGM 国際医療協力局の 駒形朋子看護師が「第41回日本 看護科学学会学術集会」で優秀 演題口頭発表賞を受賞しました



12月5日（日）に行われた「第41回日本看護科学学会学術集会」において、駒形看護師の「AIやロボットとのワークシェアを視野に入れた看護業務の実態調査—COVID-19感染症の影響に着目して—」の発表が、優秀演題口頭発表賞を受賞しました。

発表内容は、COVID-19感染症流行下での病院での看護業務の詳細を調査したものです。駒形看護師は「調査にご協力くださった看護職の皆様」に心より感謝するとともに、「将来にわたって人々の健康を守る看護サービスを可能にするために研究と社会実装に励みたい」と話しています。

